



大妻多摩中学校

二〇二五（令和7）年度

入学試験問題（第四回）

【国語】

時間 50分

2月4日（火）

【注意事項】

- 1 問題は17ページまであります。
- 2 指示があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 3 答えはすべて、問題の指示に従って解答用紙に記入してください。
- 4 句読点やカギカッコは一字と数えてください。
- 5 ページが抜けていたり、印刷が見えにくい場合には、手をあげて知らせてください。

一

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

世の中には^(注1) 譜面^{ふめん}を一枚の絵のように味わい、それを美しいと感じる人もいます。^①でもそこには時間は存在しません。時間

芸術である音楽は、メロディーも言葉も時間の流れの中に生まれるのです。今という連続体が留まることなく変化していく流れそのものを味わっているのです。映像が、少しずつ変化した静止画の連続体であるように、音楽は「今の連続体」すなわち「時間」を創造しているのだと考えます。ただし、この時間とは^② 物理的時間^{ぶつりてきかん}だけでなく、「意識の流れとしての時間（心理的時間）」も含ん^{ふく}でいます。これについては、また後ほど触^ふれたいと思います。

さて、手ごわい問題に取り掛^とかからなくてはならなくなりました。それは「時間」です。

「時間とは何か」は、永遠^{とつがく}の哲学テーマの一つです。私^(注2)が^{いねん} 概念^{がいねん}を説明できるわけがありません。理論もよくわからないのに、時間という

物理学の視点、宗教的視点、哲学的視点などあらゆる分野で時間の概念は議論されてきました。時間は「流れるもの」と捉^{とら}える人もいれば、現代物理学では時間は流れず「ただあるもの」として認識されてもいます。時間の向きも、「過去から未来」と考える人と、「未来から過去」と考える人がいます。もうなんだか熱が出てきそうです。

一つだけ確かなことをいうならば、時間は人間がつくったものさし（目盛）であるということ。太陽の動きや月の満ち欠けなどの天体の動きから、また動植物の成長などから、その経過や順序を記述するための値として用いられました。

人間が直接的に知覚し得る時間の長さは、せいぜい数秒です。時間という概念（ものさし）がなかったら、やっぱり不便です。腹時計^③だけでは^{じゆん} 心許^{こころ}ないですよ。

結局のところ、人は相対的にしか物事を捉えられないので、あらゆるものさしが必要になります。1センチはここからここまでの2点間の長さだと決めたように、1時間はこの時点（事象）からこの時点までの隔^{へだ}たり、と約束したのです。

時間とは何でしょう。私たちは時間の中に生きているのでしょうか。昨日と今日の時間は同じだったのでしょうか。私の一日とあ

なたの一日は同じなのでしょう。

私は「生きているから時間がある」と考えています。端的に言えば、動いている（変化している）から時間は存在する、ということです。

こんなことは絶対にあり得ませんが、もしも全世界（全宇宙）が同時に止まったら、それは時間が止まったということになります。その一瞬は1秒かもしれないし、1億年かもしれない。でも、^④時間がないので誰にも分からないし、確認しようもありません。

ブラックホールの引力は光さえも吸いこむ、というのは有名ですが、以前テレビの宇宙特集で、「もしもブラックホールに落ちていく物体を確認することができたとしたら、その物体は最終的に事象の地平面の位置で永久に停止して見える」と言っていました。計り知れないほどの強大な引力によって、ものすごい速さで吸いこまれているのに止まって見えるってどういうことよ？と思いますよね。簡単に言ってしまうと、そこには時間がないということです。時間がなければ^⑤もしないのです。

嗚呼、本気で頭痛がしてきそうです。たまに宇宙関連の書籍を読むと、頭の中がビックバン状態になります。これ以上突きつめるとブラックホールに吸い込まれてしまいそうなので（既に吸いこまれて停止してしまった方！戻ってきてください）、私の考えを述べます。

ザックリ言ってしまうと、変化こそが時間を創造する、ということなのです。

世の中のすべてが変化を続けていても、私自身が停止したら（究極は死です）、時間は止まります。まだ死んだ人から聞いたことはないですけど、きつと死後には時間なんて存在しません。絶対とは言いませんが、確認できないものは主体的に判断せねばなりませんから、個人的には^⑥そう考えます。

時計の進み具合だけで時間の流れを判断するのは浅はかなのではないかと思うのです。難解な物理学や宇宙の話が続けても埒が明きませんから、もっと身近なところから考えてみましょう。

^⑦数分のが、もっと長い時間のように感じるがありますよね。その反対に、何時間も経っているのに、あっという間だったと感ずることもあります。

待ち合わせで待っている同じ10分間でも、⑧ 長く感じる人もいれば、⑨ 気にならない人もいます。短気だから待てない、と性格で判断することも多い事例ですが、少し違った視点からも考察してみましよう。

時計の目盛としては誰にとっても、同一の時間が経過したことになりますが、その間にどのような変化があったかは人それぞれです。

ある人は、⑩ その場に立ったまま、ただ待ち合わせている人がいつ到着するのかわからず考えられないとします。別のある人は、相手がどんな服装で来るのか、会ったら何を話そうか、今度はあそこのカフェに入ってみよう、そんなことを考えながら、レストランに予約確認の電話を入れたり、本屋の軒に並んだ雑誌を立ち読みしたり、それにしても今日はいい天気だな、などと⑪ 他愛もないことを考えたりして過ごしているとします。

さて、この二人の10分は同じだったでしょうか。

前者の場合は長く感じられることが予想されます。相手を待たなくてはならないことで自分のやりたいことが制限されており、また⑫ 的にも変化が乏しいためです。

後者は待たされている状態に囚われず、自分なりに可能な行動を起こし、⑬ 的にも自由度が高い状態であるため、時間の長さあまり自覚されません。

もう一つ例をあげておきます。3日間のお休みが取れた二人がいます。一人はとくに予定を立てることもなく、ただ家でテレビを観たりするだけの平凡な3日を過ごしたとします。もう一人は、前々から行きたかった韓国旅行に行き、エステに焼き肉、観光にショッピングと思う存分旅行を楽しんだとします。

さて、この二人の3日間はどちらが長く感じたでしょう。

この場合は意見が分かれそうですね。最初の例から考えれば、変化が乏しい方が時間を長く感じるのだから、この例でも前者（何もしない3日間）が長いと考えてもおかしくありません。⑭ でも、本当にそう言い切れますか？ どの時点で思い返すかにもよるでしょうが、たくさんの変化があつて大きな充実感を得た後者（韓国旅行）の方が長い時間だったように感じることはないでしょうか。

旅行中は、あれもこれもとしたいと考えて、時間が足りないと感じる場面もあったかもしれません。帰り際には、楽しかったからこそ、あつという間に3日間が過ぎたように思ったかもしれません。それでも、帰って来てから、あらためて振り返ったときには、とても長い時間を過ごした実感があると思います。

一見矛盾しているようにも思えますが、変化の程度によって時間は長くも短くも感じられるのです。その時間に対して、主体的に働きかけられたか、能動的な行動を起こせたか、心身ともにどの程度の変化があったか、それらによって心理的時間は変動します。質が高く濃い時間は、「長くて短く、短くて長い」そんな不思議な時間体験なのです。

いいと感じる歌は、そんな不思議な時間体験をした歌です。だいたい1曲の長さは3分から5分程度ですが、その数分が実質的に同じ時間の流れであることはありません。ストップウォッチで計った3分の出来事を、そっくりそのまま3分の曲にしていることはないということです。

3分の曲でも、その3分には3日間、3ヶ月、3年、それ以上の時間が流れていることがあります。朝が夜になり、今日が明日になり、春が夏になり、子どもが大人になり、誰かと出会い、誰かと別れ、そうやって一つの曲の中で時間もここも激しく移り変わっていくのです。

歌詞の中で直接的に季節を追っていたり、^(注3) Aメロでは出会いのシーンをBメロでは別れのシーンを歌っていたりするものが分かりやすいと思いますが、そのような曲以外でも、今というある時間軸の一点から、過去や未来に思いを馳せているものがほとんどです。たとえばストーリー性のない思想などを歌った曲だとしても、こころの動き（変化）がある以上は、時間の流れもあるはずであり、意識もひと所に留まってはいません。竹内まりやさんの『人生の扉』という歌では、過ぎ去った過去の数十年を振り返るとともに、まだ見ぬこの先の数十年を「五十路を超えた私」という今の時点から描いています。

時間は概念でしかなく、止まることも区切ることもできません。1秒が5分に、1時間が1日に、1年が一瞬に感じられることも、過ぎ去ったあとに思い返した心理的時間の解釈であり、時間というまとまった何かは存在しないのです。

⑭ 私たちにあるのは、ただこの瞬間の「今」だけなのです。

歌は、物理的時間の流れを利用しながらも、心理的時間、意識としての時間の流れを創造しています。楽器の演奏でも同じことが言えると思いますが、歌に関してはさらに感情などを呼吸に、言葉に投影して、生命体である肉体を共鳴させ体現しているので、個人的には、良い意味でより生々しいと感じています。

(NOBU『歌で目覚めるちから あなたが歌いたくなる本当の理由』〔彩流社〕より)

(注1) 譜面——楽譜のこと。

(注2) 概念——「それは何か」という意味内容を表すことば。

(注3) Aメロ——曲の出だしから曲調の変わる部分までのまとまり。

問1 ——線部①「でもそこには時間は存在しません」とありますが、それはなぜですか。理由として最も適切なものを、次のア～

エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 譜面にはメロディーや言葉が書かれていないから。

イ 譜面は静止画のようなものであり変化しないから。

ウ 譜面とは音楽の流れそのものを味わうものだから。

エ 譜面とは今という連続体の変化を表すものだから。

問2 — 線部②「物理的時間」とは、どのようなものですか。これについて説明した次の文章のX・Yに入る適切な言葉を本文中

から指定字数で抜き出して答えなさい。

人間がつくった X(4字) であり、 Y(5字) や動植物の成長などを用い、へこの時点からこの時点までの2点間の隔たりを○時間(○年)とするゝなどと決めたもの。

問3 — 線部③「心許ない」の言葉の意味として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 頼りなく不安で心が落ち着かない。気がかりだ。

イ 気持ち焦るばかりで何も手に着かない。

ウ なんとなくやる気が出ない。

エ いつ食事をとっていいのか正確に測れない。

問4 — 線部④「時間が^{だれ}ないので誰にも分からないし、確認しようありません」とありますが、確認できないのはなぜですか。

理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 私たちは、時間の中に生きているわけではないから。

イ 昨日は過去のことなので、今日と同じかは確かめようがないから。

ウ 一瞬は短すぎて計測できるようなものではないから。

エ 誰もが動いていないということは時間が存在していないことになるから。

問5 ⑤ に入る語として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 進歩 イ 変化 ウ 表面化 エ 落下

問6 — 線部⑥「そう考えます」とありますが、筆者はどのようなことを考えていますか。三十五字以上、四十五字以内で答えなさい。

問7 ⑦ ⑩ に入る最も適切な言葉を、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上使用しないこと。

ア まったく イ じつと ウ やたらと エ わずか

問8 — 線部⑪「他愛もない」を使った例文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 我が子は本当に他愛もないところがありません。

イ すぐ忘れてしまうほど他愛もない話題でもり上がる。

ウ 今日は他愛もない天気ですからご安心ください。

エ 用事が立て込んでいて他愛もない気持ちになった。

問9 ⑫ に共通して入る言葉を本文中から二字で抜き出さない。

問10 — 線部⑬「でも、本当にそう言い切れますか？」とありますが、このような問いかけから筆者はそう言い切れないと考えていることがわかります。筆者は、旅行中と旅行後の時間の感じ方にどのような違いがあると考えていますか。三十五字以上、四十五字以内で答えなさい。

問11

——線部⑭「私たちにあるのは、ただこの瞬間の『今』だけなのです」について四人が話し合っています。この表現の説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 生徒A 「時間は実体のない概念ではないから、過去・現在・未来と区切るのはそもそもおかしい、ということなのかな」

イ 生徒B 「一年が一瞬に感じられるのも気のせい、時間というまとまった何かは存在しない、ということだと思うよ」

ウ 生徒C 「『人生の扉』という歌が、今の時点から五十代を超えた自分を想像しているように、過去や未来は想像の中にある、ということじゃないかな」

エ 生徒D 「過去や未来に思いを馳せていても、私たちは今という時間軸の一点にいて、その『今』も次々変化していつていくということだと思うよ」

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

6を、8にした。

1を、9にした。

世界が変わった。ほんの数秒で。

僕は赤い水性ペンのキャップをしめる。

61点だった英語のテストは、これで89点になった。

こうやって現実を書き換えて、こっちのほうが本当の僕にふさわしい気がした。だからいいんだと自分に言い聞かせる。

だって僕は、こんなバカのはずがない。

去年、中学三年生の夏に父さんが「家を買うことにした」と言った。

「新築マンションだぞ。奏斗^{かなと}も嬉しいだろ」

夕食時にそう笑う父さんは、^①いつもよりも声がちよつと高く、とても誇らしげだった。ビールの泡^{あわ}が、唇^{くちびる}の端^{はし}にくつついていた。

マイホームを持つというのが、長年社宅住まいを続けてきた父さんの夢だったのだ。

それまで住んでいた家から電車で一時間ほどの、都心寄りの駅名を父さんは告げた。電機メーカーの工場が取り壊されて、跡地^{あとち}に

新しく五階建てのマンションが建設されることになったと母さんが補足した。

父さんと母さんが決めてきたというその部屋は一階で、マンションでありながら庭があるというのもポイントだったらしい。ガー

デニング好きの父さんにとって土いじりができることは必須条件^{ひつす}で、中古の戸建てを探していたところにこの物件と出合ったのだと

いう。駅からも近いし、周辺はスーパーや飲食店が充実^{じゅうじつ}しているし、予算も立地も希望にかなっていて、^②言うことなしだとふたりは

喜んでいた。

アドヴァンス・ヒル。そんな仰々しい名前の新築マンションは三月に完成予定で、僕は中学卒業と同時に引越すことになった。

それまで僕は、郊外にある^③のんびりした街の公立中学に通っていた。そして自分で言うのもなんだけど、優等生だった。

中学生生活はゆるかった。ぬるかった。正直、たいして勉強した覚えはない。授業をちゃんと聞いてさえいけば、テスト前に教科書をめくると、だいたいここが出るだろうな、というのがなんとなくわかった。与えられたプリント課題をちゃんと提出していれば、通知表には5が並んだ。

授業中、小さな紙きれに何やらこそこそ書いて交換したり、だらしなく眠ったりしているやつらを見ると、どうして彼らが僕に対して「頭がいい」なんて羨望やら嫉妬やらしてくるのかわからなかった。^④おまえら、成績悪くたってあたりまえじゃなか。

都心近くに引越すことになったのも後押しして、僕は都内の進学校を受験することに決めた。

この学校を受験した生徒は、僕と同じ中学にはひとりもない。面談で担任の先生が「奏斗君なら推薦でいける」と言ってくれたときの、母さんの満足そうな笑みを見て僕も嬉しかった。

そして僕は推薦入試になんなく合格し、年内に早々と受験から解放された。

小学校から通っていた塾をやめ、年末年始は漫画を読んだりゲーム三昧で過ごした。父さんも母さんも、僕がどれだけ遊んでいようが何も言わず、ふたりで楽しそうにカーテンや家具を見に行ったりしていた。

卒業が近くなると担任の先生が僕に「みんなと離れちゃうのはさびしいな」と言った。でも、そのことについて僕は何も感じなかった。適当に仲良くしてるふうなクラスメイトはいたけど、心を開けるような友達にはいなかったように思う。なんとなく身の置き場がないというか、^⑤「話せる」ヤツとは出会えなかった。

離れてさびしいなんて思うことも、誰かに思われることもきつとなくて、だからどちらかというときさっぱりした気分だったのだ。

新しい家、新しい生活。僕は希望を胸に高校に入学した。やっと話の合う、僕にぴったりの友達ができるに違いないと思った。

だけど、新学期が始まってすぐ、僕はどこにも分類されないことを知った。

ルックスが良くてキラキラした連中とは交われず、やたら理屈っぽい声の大きな輩には近寄りがたく、無言で参考書と首つぴきの

ガリ勉とも話しづらくて、ここでもやっぱり僕は^⑥身の置き場を見つけることができなかった。これなら、中学時代ののほほんとしたクラスメイトのほうがまだ話せたような気がする。

そして何よりも……中間テストを受けて、^⑦大打撃を受けた。

まず、問題の数が多い。時間内に全部解けない教科もあった。出題傾向もずいぶんとひねられていたし、さらに、授業ではやらなかったような内容も出たのだ。先生曰く「一般教養として知っておくべきこと」も含まれていたとかで、なんなんだ、それは。

テスト明けの授業で返された答案用紙はことごとく低得点で、僕のプライドはズタズタだった。そして数日後、すべての点数と個人順位が書かれた成績表の細い紙きれを渡されて愕然^{がくぜん}とした。

四十二人中、三十五位。

今まで、一桁の……それもおおよそ三までの数字しか受け取ったことがなかったので、本当にびっくりした。こんなの、初めて見た。

おかしい、僕がこんなにバカのわけがない。

こんなもの、母さんには見せられなかった。しらばっくれていたらすすがに「テスト、どうだったの」と訊^きかれたので、やむなく答案用紙だけまとめてばばと見せた。順位のついた成績表をもらっていることは、言わなければきつとわからない。

答案用紙の点数を見た母さんの眉間^{みけん}の皺^{しわ}は深く深く刻まれ、^⑧僕はその溝^{みぞ}に落^おつこちてしまいそう、あわててこう言った。

「平均点が低いんだよ」

母さんの皺^{しやっかん}が若干、浅くなった。

「すごく難しくてさ。みんなヒーヒー言^いってた」

嘘^{うそ}だった。平均点をかろうじて上回ったのは得意の英語だけで、他の教科はほとんど届かなかったのだ。

「初回はそんなもんだよなあ！」

父さんがとりなすように言った。そしてホームセンターで買ってきたという肥料の話を持ち出してくれたおかげで、母さんは僕に

答案用紙を戻し、父さんと話し始めた。

父さんは僕を救出してくれたというより、たぶんどうでもいいのだ。昔から、僕の成績のことに……というより僕にはあまり関心がなさそうで、いつもにこにこしているけど特に褒めてくれるわけでもない。ただ、話をそらしてくれてとりあえず助かった。

期末テストでがんばればいい、なんて思っていたけど、それから僕は、すっかりやる気をなくしてしまった。

⑨ えらいところに来てしまった。もう圧倒的にみんなと差がついていて、今さら追いつくのは無理だろう。中学の頃みたいに、授業さえ聞いていればいいというわけではなさそうだった。

もつとも授業にしたところで、レベルの違いを感じていた。進むスピードが速いし、先生に指名されても僕には答えられないことが多かった。口をつぐんでいる僕にしびれを切らした先生が、次の生徒を当てる。その子がさらっと正解を言ったりすると、僕は本当に消えなくなった。

そんな気持ちで勉強に身が入らないまま、一昨日、期末テストを終えた。

僕は頭を抱える。中間テストよりもできなかったと思う。自分以外がみんな天才に見える。みんな余裕の顔してる。

また順位のついた成績表が出るまでの数日を待つのが、受験の合格発表のときよりもこわい。

昨日、英語の授業で返ってきた答案用紙。

61点。平均点は62点だった。唯一の得意科目でとうとう平均点を超えられなかったのだ。驚愕や落胆というよりも呆然としてしまい、体が固く動かなかった。

帰宅してすぐ、母さんに「テストって、いつ返ってくるの?」と言われてうろたえた。中間テストのときにいつまでも見せないでいたから、今回は先に催促してきたのだろう。

それで僕は、自分の部屋で赤ペンを手に取ったのだ。

6を、8にした。

1を、9にした。

「英語だけ返ってきた」と言つて、点数のところだけパツと見せた。

89点の答案用紙。

「平均点は62点だったよ」

はつきりとそう告げる。それは嘘じゃないから堂々とした声が出た。

母さんは目を細めて言つた。

「やっぱすごいわねえ、奏斗は！がんばったね」

「うん、まあ」

そう答えながら、^⑩ 苦い薬を飲んだときみたいに、口の中がしびれていた。

僕は心で叫^{さけ}んでいる。どうして、どうして？

^⑪ どうして僕は、バカになっちゃったんだ……？

（青山美智子^{あおやまみちこ}『リカバリ・カバヒコ』〔光文社〕より）

問1 — 線部①「いつもよりも声がちょっと高くて、とても誇らしげだった」とありますが、その理由として最も適切なものを、

次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 長年の夢だったマイホームを持てたので、住宅のみんなに知らせて褒めてほしかったから。

イ 長年の夢がかなってマイホームを持つことができ、自慢したいし嬉しいので興奮しているから。

ウ ビールを飲んでいる時にマイホームを買うことが決まり、酔っばらっているので大きな声になったから。

エ 家族全員の夢であるマイホームを持つことになって、引越しができることを息子が喜んでいと思ったから。

問2 — 線部②「言うことなし」の意味として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 表す言葉がない。

イ 別な言葉で言えないほど立派だ。

ウ 非の打ちようがなくてすばらしい。

エ なんと文句を言ったらよいかわからない。

問3 — 線部③「のんびり」とありますが、同じ意味として使っている言葉をこの後の本文中から四字で抜き出して答えなさい。

問4 — 線部④「おまえら、成績悪くたってあたりまえじゃなか」とありますが、その理由を、本文中の言葉を使って三十字以上、

四十字以内で答えなさい。

問5 — 線部⑤「『話せる』ヤツ」とありますが、それはどのような人のことなのか本文中から十四字で抜き出して答えなさい。

問6 — 線部⑥「身の置き場」のここでの意味として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 仲間と一緒にいて安心して自分らしくいられる場所のこと。

イ クラスメイトから離れていつも独りでいられる場所のこと。

ウ 仲間の中のルールの通りに行動すれば何も心配ない場所のこと。

エ 自分の立場がはっきりしていて行動が決められている場所のこと。

問7 — 線部⑦「大打撃を受けた」とありますが、それはなぜですか。「と思ったから。」につながるように、本文中から十四字で

抜き出して答えなさい。

問8 — 線部⑧「僕はその溝に落っこちてしまいそう」とありますが、ここに使われている表現技巧を次のア～オの中から一つ選

び、記号で答えなさい。

ア 擬人法

イ 倒置法

ウ 直喩(明喩)

エ 隱喩(暗喩)

オ 対句

問9 — 線部⑨「えらいところに来てしまった」とありますが、このときの気持ちを説明している次の文の空欄に入る適切な言葉

を本文中から指定字数で抜き出して答えなさい。

勉強の

①(三字)

が違いすぎて、自分以外のみんなが

②(二字)

に見えて

③(四字)

ことは無理だという気

持ち。

問10 — 線部⑩ 「苦い薬を飲んだときみたいにな、口の中がしびれていた」とありますが、このときの気持ちとして適切でないものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 怒^{いか}り イ 後悔^{こうかい} ウ 恥^はずかしさ エ 後ろめたさ

問11 — 線部⑪ 「どうして僕は、バカになっちゃったんだ……？」とありますが、奏斗は、こうならないためにはどうすればよかったのですか。本文をふまえて自分の考えを三十字以上、四十字以内で答えなさい。

三

次の各問いに答えなさい。

問1

次の①～⑤の文の——線部のカタカナを適切な漢字に直しなさい。

- ① テレビでオリンピックのセイカランナーが走っている姿を見る。
- ② 一つの問題から別の問題がハセイしてきた。
- ③ 天然の資源を保存するようにツトめていく必要がある。
- ④ 日本の少子化対策に対する専門家のケンカイを聞く。
- ⑤ 地球温暖化は私たちの将来の生活にシンコクな影響を及ぼす。

問2

次のことわざ・慣用句について、空欄にはそれぞれ同じ漢字が入ります。意味を参考に、空欄に入る漢字を答えなさい。

- ① 海□山□ 意味…いろいろな経験を積み、世間の表裏を知り尽くしてずる賢いこと。
- ② □真□銘 意味…まちがいがなく、本物であること。うそいつわりのないこと。
- ③ □材□所 意味…その人の能力や才能に合わせて、一番ふさわしい地位や仕事につけること。
- ④ □由□在 意味…何事にもとらわれず、思いのままにふるまうこと。
- ⑤ 青□吐□ 意味…ほとほと困ったり、弱ったりして、ためいきをつくこと。

以下余白

